

宮城県日中友好協会

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ <https://miyagi-jcfa.com/>



2月、(如月 きさらぎ)。今年もキーワードはコロナ?。兎に角収まりそうにもない。いろいろな情報に耳を立てて、いつでも対応できるようにしたい。今年も皆さんと直近ではお花見が出来ることを願っています。

1. 2月の行事

日 時	行 事 名	場 所
2月4日(土)	「2023年度定期総会」並びに「新春の集い」12:00～ 大河原日中友好協会 参加費 3000円	和様亭ぶざん
2月5日(日)	元宵節を祝う交流会 14:00～ 青年委員会 参加費:100円。コロナ感染対策のため、人数制限を行います。参加希望の方は吉澤まで事前にお申込みください。グループ対抗のゲームやクイズ、交流会を行います。	仙台国際センター多文化共生センター研修室。
2月25日(土)	仙台市日中友好協会定期総会 10:00～	宮城県自治労会館401号室

2. 日本語発表会について(オンライン交流推進委員会 横山弥生)

12月11日(日)13時半から16時半、zoom形式によるオンラインで、「日本語発表会」を開催しました。主管はオンライン交流推進委員会。

発表のテーマは「宮城県に関すること」で、5名(東北大2名、専門学校2名、台湾から1名)の出場申込みがありました。11月に交流の一環として、日中会員に表記等のチェックをしてもらいました。

視聴者の申込みは、国外は北京、上海、西安、瀋陽、ソウルから(留学生の知人)国内は北海道、山形、東京、神奈川からの申込みがありました。オンラインによる事業の可能性を感じた出来事でした。

県民会館の会議室にメインカメラを設置し、曾萍さんの司会で開会、佐々木会長さんから挨拶をいただきました。出場者の発表の後、鎌田城行さんによる質問タイム。視聴者を代表しての質問に、発表会の雰



囲気が和みました。メイン審査は佐々木謙日中会長、水戸憲子女性委員会委員長、馬場ひとみ青年委員会会員の3名がブレイクアウトルームに分かれて行いました。今回、出場者の日本語のレベルが高く、全員に賞をあげたいと思うほど、甲乙付け難かったです。審議の結果、侘び寂びを表現していた、東北大学の留学生、胡秉真(こへいしん)さんが選ばれました。日中会員には心に残った発表を一名選んで投票してもらい、聴衆賞を決めました。その結果、東北多文化アカデミーの李響(りきょう)さんが選ばれました。入賞者には協会からトロフィー代わりに秋保のこけしを贈呈、また

参加賞として全員に宮城と松島のファイルやボールペンを送りました。実は主催者は、今回がzoomの事業初めての者ばかり。zoomは1人では練習できないので、当日運営しながら覚えた機能があった程でした。自宅から参加のスタッフに支えられて、会員全員で力を合わせて作り上げた発表会でした。

《コケシについて》秋保工芸の里で遠刈田系伝統こけしを製作している我妻敏工人にお願いして作っていただきました。材料は桜です。

3. 孫大剛新潟総領事館総領事退任について

2022年12月30日をもって孫大剛総領事が退任するとの知らせが年末事務所に届きました。

孫総領事は2017年新潟総領事館に総領事として赴任し、5年間在任されたこととなりますが、宮城県日中はこれまで新春号挨拶や全日本中国語スピーチコンテスト東北大会では大変お世話になりました。

コロナの感染でここ数年は新潟総領事館の催しにはなかなか参加できず、孫総領事との交流はできなくなっており、残念です。

退任後は出身の遼寧省に戻られるのかどうかわかりませんが、お元気で、あちらで会う機会を楽しみにして、お別れを惜しみたいと思います。

4. 全日本中国語スピーチコンテスト (青年委員会 吉澤 千明)



1月8日(日)、「第40回全日本中国語スピーチコンテスト」が東京の日中友好会館で開催されました。昨年の大会は出場者のみの無観客開催でしたが、今年は関係者の参観が許されました。

午前中は「スピーチ高校生の部」と「スピーチ一般の部」のコンテストがありました。高校生の部に参加した山形、岩手の高校生二人とも落ち着いた素晴らしい発表でしたが、質疑応答にうまく答えられない場面がありました。

午後の大学生の部には宮城代表の学生さんが出場しました。発表は地方大会以上に素晴らしかったのですが、質疑応答で少し戸惑っている様子が見受けられました。

大会の結果を見ると、質疑応答でうまく答えられていた発表者が入賞していたので質疑応答が東北代表の今後の課題だと感じました。

「朗読高校生の部」では岩手県代表と山形県代表の2名が優秀賞に輝きました。各地方大会で160人のエントリーがあり、地方大会の結果全国大会に推薦されたのが20名。その中で最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。朗読の部はどの部門も参加者が多い中、入賞は3名と狭き門です。そんな朗読の部に2名も入賞したことは

とても素晴らしいと思いました。今年も東北の中国語学習者のレベルアップのためにコンテストを開催予定です。皆様のご協力とご支援を引き続きお願いいたします。【写真】上：橋本逸男日中友好協会副会長の挨拶、下：東北大会スピーチの部で全国大会に参加した加藤大君の発表風景。

5. 「日中平和友好条約締結45周年記念・2023年春節祝賀会」開催について (理事長 木村 正幸)

「日中平和友好条約締結45周年記念・2023年春節祝賀会」を石巻地区日中友好協会主催で、1月22日(日) 飛翔閣において35名が参加し行われました。今回は中国人の方々が18名参加してくれました。その中には家族連れでの参加もありました。白井会長のあいさつに引き続き齋藤正美石巻市長と石巻市国際交流協会大森副会長より祝辞を頂きました。その後、王卓希さんの「川劇 変面」披露では会場が大きな盛り上がりとなりました。集合写真では温州市より石巻市に送られて来た春節の飾り「福字」を持ってとなりました。交流の中では石巻専修大学留学生への激励品の贈呈や自己紹介など行いました。この日初めて参加した中国人の方より参加者へのプレゼントも頂き盛会のうちに終わることが出来ました。来年は石巻市と温州市が友好姉妹都市を締結して40周年を迎えます。



※ 福字を持った集合写真



※ 王卓希さんの「川劇 変面」披露

6. 《寄稿》スマホから見える中国ー「かまど神様を祀る『小年』(1) (オンライン交流促進委 小野寺 幸)

脳性麻痺で日常生活に介助が必要な私が中国のSNS『快手(Kuai Shou)』に登録してスマホから見ている中国を皆様にご紹介するのも面白いかと思ひまして寄稿することにしました。つたない文章ですがよろしくご笑覧ください。

さて、この原稿が皆様のお手元に届くころには中国の春節の一連の行事も終わっていることと思います。中国の春節前後の伝統行事はまさに目白押しです。今年の陰暦の大みそかは1月21日そして1月14日・15日(陰暦12月23・24)が次回詳しくご紹介する『小年』です。私達の住む宮城県にも昔は台所にかまど神様を祀る風習があったはず。日中のかまど神様はどう違うのか、そしてなぜ中国の北方と南方で祀る日が違うのか、そんな疑問をいただいた私が日中両国のウェブサイト、パソコン、スマホを駆使して調べた結果を皆様にご報告できればと思っております。(次回につづく)